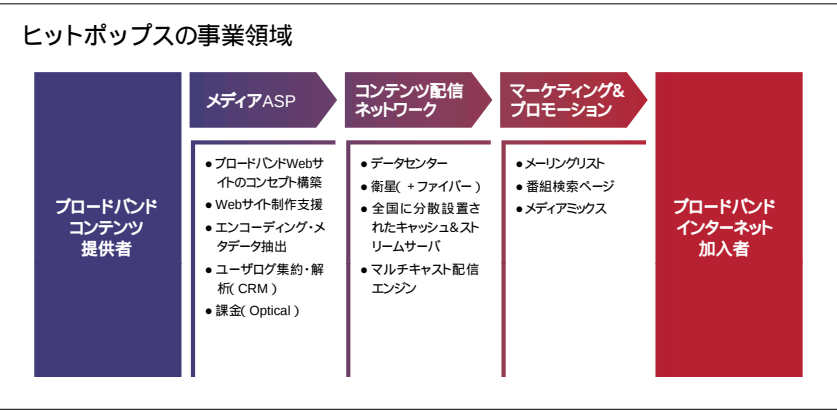


ヒットポップス コンテンツ配信事業は「オセロゲーム」 ISPとの共同歩調こそ勝利の条件

IPマルチキャスト技術を用いてブロードバンドコンテンツ配信事業に乗り出したヒットポップス。
宇宙通信の「スーパーバード」利用で地上のインターネット網のトラフィック渋滞を解消する付加価値を強みに、
通信新時代におけるビジネスモデルをどう確立していくのか――。



Company Profile

社名：株式会社ヒットポップス
設立：2000年5月17日
代表取締役社長：松村英章
本社：東京都品川区大崎1-20-18
大崎高木ビル4階
資本金：10億1100万円
事業内容：ブロードバンドコンテンツの配信サービス事業
URL：www.hitpops.jp

「衛星による高速インターネット技術を駆使したIPマルチキャストサービスが次の市場を席巻するに違いない」――。98年4月に三菱グループの情報通信戦略子会社、宇宙通信の江名輝彦社長の机に1通の分厚い建白書が提出された。気骨ある一部の若手エンジニアたちが衛星通信の将来を思い、勤務を終えてから終電までの時間にひざ詰めで続けた勉強会の結果をまとめあげたものだった。ブロードバンドインターネット普及を展望し、衛星放送ビジネスからコンテンツ配信ビジネスへの転換の必要性を、社長直訴という創業以来前例のない手段で経営トップに訴えかけた行動が、ヒットポップス設立の原動力となった。

コンテンツ流通に新経路を提供
宇宙通信の系列会社であるヒットポップ

スは、CATVインターネット向けコンテンツデリバリーネットワーク(CDN)サービス事業者、すなわち、コンテンツ提供者からコンテンツを収集し、ブロードバンドネットワーク接続事業者と契約して配信するマーケティング事業を手がける先進企業だ。CDNがコンテンツ提供者とISPの間にあることで、コンテンツ提供者は制作事業に、ISPは接続事業に専念することができる。ブロードバンドアクセス回線というインフラが構築され、コンテンツ流通の新しい経路が誕生したことに伴って不可欠の機能になってきた。

同社が提供する具体的なサービスの内容は、あらかじめ決められたスケジュールに従って、ライブまたは録画されたコンテンツを配信する高速インターネット放送サービス「HitStream(ヒットストリーム)」、オンデマンドのコンテンツ配信サービス「HitWeb(ヒットウェブ)」、インターネット上に世界中から不特定多数の人が全ジャンル情報を投稿する「ネットニュースグループ」をISP向けに衛星で配信するサービス「HitNews(ヒットニュース)」――の3種類。

は音楽やスポーツのライブ中継、オンラインショッピングチャンネル、視聴者参加番組などを配信する場合に適している。

は全国のCATV局内に設置されたヒットポップスサーバーにあらかじめコンテンツを蓄積しておくことにより、加入者のリクエストに応じてコンテンツを再生できることから、ビデオオンデマンドのほかにオンラインゲーム、音楽ファイルのダウンロードに適している。また、 は1日当たり50ギガバイト以上という膨大な投稿ファイルを衛星で配信することにより、ISPはバックボーン回線に大きな負荷をかけることなくネットニュースグループに参加することが可能になる。

テレビ放送からIPサービスへ

同社が設立される以前は、衛星通信ビジネスといえば企業内通信における社内教育・研修への活用や、官公庁・地方自治体などの回線提供の事業モデルが主流だった。ところが、96年10月にJSAT系のパーフェクTVの放送スタートを皮切りに衛星デジタル多チャンネル放送ビジネスが立ち上がり、97年12月には宇宙通信系のディレクTVが放送を開始。続いてJスカイBが参入して国内の衛星デジタル放送3社競合の構図ができあがった。結果的にスカパーフェクTVの放送プラットフォームに集約されることになる。

しかし、こうした衛星放送ブームの裏で、インターネット勃興のうねりを、問題意識を持って受け止めてきた技術者たちがいた。当時の状況を、三菱商事からヒットポップス設立に参画した樋口健・執行役員営業本部長は、「衛星ビジネスの流れは明らかにアナログ放送からIPマルチキャストサービスに移りつつある時期だった。衛星通信のメリットである高速、高品質、一斉同報の各機能は、IP技術によってオフィスや一般家庭のパソコン向けビジネスの道が開



樋口健・執行役員営業本部長

けてきた」と振り返る。若手技術者たちは、将来IPサービスが主流になることを確信して、江名社長にその考えを投げかけ、意気込みは認められた。しかし、明確なビジネスモデルを描いているわけではなかった。

そこで、宇宙通信では98年9月に「次世代通信システム開発室」を設置。事業化を検討した結果、打ち出された事業構想は、LANと接続できる企業向けIPマルチキャストサービスのアプリケーションとコンシューマー向けIPサービスだった。

ちょうど99年前後にCATVインターネットが急速に伸び始めた。コンシューマー向けCATVインターネットのバックボーンに衛星通信を利用すれば、CATVの持つ高速性を損なうことなくコンテンツを配信できる。また、地上のインターネットの混雑を迂回することで伝送帯域も広がり高品質の映像や音声を配信でき、コンテンツ供給元から全国のCATV会社のローカルサーバーに同時に配信する完全なマルチキャストも低コストで短期に実現できる。時代のニーズと衛星通信の技術とが初めて一致した形だ。若手エンジニアたちが建白書で描いてみせたIPマルチキャスト、コンシューマーのパソコン向けコンテンツ配信、CATVインターネットの三位一体のビジネス構想の実現に一步近づいた。

しかし、これまで宇宙通信としては事業

IPマルチキャスト
TCP/IPのネットワーク上でマルチキャスト伝送を行なう技術。1：1で通信を行なうユニキャストに対して1：nの形で複数に対地にした通信がマルチキャスト。動画コンテンツをリアルタイムにストリーミング配信するような場合、ユニキャスト方式では多数の視聴者からのアクセスが殺到し、ネットワークにもサーバーにも大きな負荷がかかる。このため、1つのパケットを多数の相手に同時に伝送できるよう考案されたのがIPマルチキャスト。IPマルチキャストを実現するには専用のルーターやサーバーを導入する必要がある

宇宙通信
三菱グループの出資で85年3月22日に設立された衛星系第一種電気通信事業者。通信衛星「スーパースターA / B2 / C / D号機」の4機体制で衛星通信・受託国内放送サービスを提供している

JSAT
85年2月18日設立。93年8月に日本サテライトシステムズに社名変更、日本通信衛星とサテライトジャパンが合併。2000年4月1日JSATに社名変更。主要株主は伊藤忠商事、NTTコミュニケーションズ、三井物産、住友商事、ITXなど。7つの軌道に8機の通信衛星を保有する、アジアで最大級の衛星通信事業者

CDN
Contents Delivery Network: プロバイダーやコンテンツ配信業者がサーバーをネットワーク内に複数設置し、ユーザーにとって最適なサーバーに接続する仕組みを提供する。ブロードバンド時代のコンテンツ流通を支えるものとして注目集めている